

第 20 課

ヨハネの福音書 第20章

この課であなたが学ぶことは……

あいていた墓

マグダラのマリヤに現れたイエス

弟子たちに現れたイエス

イエスとトマス

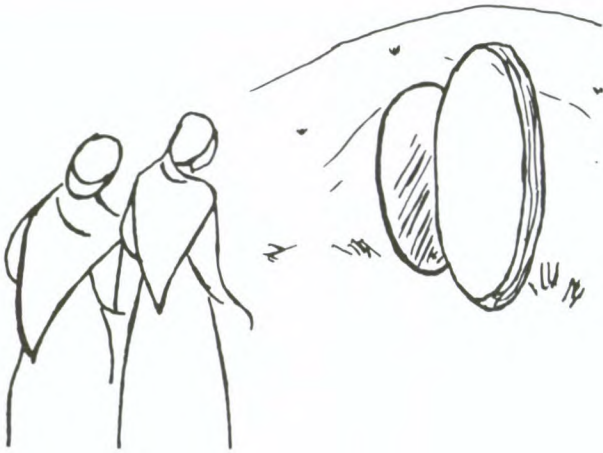
ヨハネの福音書を書いた目的

あいていた墓

ヨハネ福音書20：1～10を読んで下さい。

イエスは、ご自分が十字架につけられて死なれることを、何度も弟子たちに話しておられました。そして死後、必ず復活することも予告しておられましたが、イエスが実際に十字架で死なれたとき、弟子たちは復活されるという約束を忘れてしまっていたのです。

他の福音書によると、マグダラのマリヤは数人の婦人たちとイエ



イエスの葬られた墓に、朝早く当時の習慣に従って、イエスの体に香料を塗るために来たことが記録されています。しかし、彼女が墓に来ると、墓の入口を塞いでいた大きな石は取り除かれていて、墓はからでした。そこでマリヤは、急いで弟子たちにそのことを知らせるために走って行きました。他の婦人たちは墓のそばに立っていると、一人の天使が現れ、イエスは復活されたことを告げました。

ペテロとヨハネは、マリヤの知らせを聞いて墓に急いで行きましたが、墓はからで、イエスの体を包んでいた布がそこに残されていました。マリヤは、イエスに敵対していた者たちがイエスの死体を盗んで行ったと思いましたが、ペテロとヨハネは、盗人たちが布をイエスの頭の置かれていた所にわざわざ残していくことはないと考え、一体、何が起きたのか不審に思いつつエルサレムの宿舎に帰って行きました。



自習のために

- 1 なぜマリヤはイエスの葬られた墓に行きましたか。
 - 1) イエスの死体を確認したいので。
 - 2) イエスの死体に香料を塗るため。
 - 3) 墓地の番人と話すため。

- 2 墓に着いたとき、彼女は何を見ましたか。
 - 1) 墓は開いており中はからだった。
 - 2) ヨセフとニコデモが香料を塗っていた。
 - 3) イエスに敵対する者たちが死体を盗んだあとだった。

- 3 ペテロとヨハネが墓に行ったとき彼らは何を見ましたか。
 - 1) 兵士たちが彼らに何が起きたのか聞いた。
 - 2) 番人が彼らにイエスの死体の場所を尋ねた。
 - 3) イエスの体に巻かれていた布切れを墓で見つけた。

マグダラのマリヤに現れたイエス

ヨハネの福音書20：11～18を読んで下さい。

ある人々は、愛する者を亡くした悲しみが余りにも大きくて、神のみことばを信じることのできないときがあります。

墓地で、婦人たちにイエスは生きておられると伝えた天使のすばらしい言葉さえ、弟子たちやマリヤは信じられませんでした。彼らはイエスに直接出会って確かに復活されたという事実を知る必要があったのです。

現在、イエスは私たちの所にも来られ、ご自分が生きておられることを示して下さい、私たちの涙を喜びに変えて下さるのです。そしてマグダラのマリヤを遺わされたように、私たちをこの事実を々に知らせるために遺わされるのです。男も女もこの復活されたイエスを伝える責任があるのです。復活されたイエスに出会ってこの事実を知ったのは、マグダラのマリヤが最初でした。



自習のために

- 4 マリヤに会うために墓に来られたイエスは何と言われましたか。
- 1) 泣くのはやめなさい。
 - 2) 家に帰りなさい。
 - 3) 弟子たちに復活の事実を告げなさい。

弟子たちに現れたイエス

ヨハネの福音書20：19～23を読んで下さい。

その日、イエスは弟子たちにもご自分を現わされました。イエス敵対していた者たちに襲われることを恐れていた弟子たちは、鍵

をかけて家の中にとじこもっていました。そこにイエスは現れたのです。彼らはイエスを見たとき、本当にイエスが復活されたことを信じられないでいました。イエスは、ご自分のわき腹と手の傷を弟子たちに見せて、幽霊ではないことを証明されました。イエスの復活の事実を知った弟子たちは喜びました。

そこでイエスは、父なる神がご自分を世に遺わされたように、弟子たちを世に遺すことを再度話されました。その業をなすために助け手として、やがて聖霊を受けるであろうと言われました。使徒働きによると、約50日後、五旬節の時に、弟子たちが聖霊のバプテスマを受けたことが記されています。現代においても、救いを受けたクリスチャンで、神のご用に役立ちたいと願う人々には、神は聖霊のバプテスマを与えてくださるのです。

この時のイエスのことばに対する弟子たちの従順・不従順によって、人々が救いにあずかるか否かが決まるのです。聖霊を受けた弟子たちが従順に従って出て行き、人々に福音を語ることにより、罪人は悔い改め罪を赦されたのです。しかし、もし弟子たちが福音を伝えることを拒んでいたとしたら、人々は救いの道を知ることができませんでした。福音を聞いて罪の赦しを求める祈りを知らなければ、罪人の救いはないのです。私たちクリスチャンは、イエスについて語る責任があります。復活されたキリストを知り、聖霊に満たされることにより、私たちは人々に救いの道を示す助け人となることができるのです。



自習のために

- 5 イエスは弟子たちに何と言いましたか。
- 1) 身を隠すように。
 - 2) 父が自分を遺わされたように、弟子たちをこの世に遺わす。
 - 3) 家に帰るように。
- 6 弟子たちに与える業のためにどのような助けをイエスは約束されましたか。
- 1) 福音伝道の費用を彼らに支払う約束。
 - 2) 彼らに喜びを与え、彼らは悲しむことはない。
 - 3) 聖霊を与える約束。
- 7 どのように弟子たちは、人々を罪からの救いに導くことができますか。
- 1) 罪を赦すことによって。
 - 2) 福音を語ることによって。
 - 3) ろうそくに火をつけることによって。

イエスとトマス

ヨハネの福音書20：24～29を読んで下さい。

トマスは、他の弟子たちがイエスに会ったことを話しても信じようとはしませんでした。彼らの体験ではなく、自分自身が見るまでは

決して信じないと言うのです。

今日でも多くの人々が、クリスチャンはだまされていると考えられています。そのような人は、自分でイエスの復活の事実と、イエスが生きておられることを体験する必要があるのです。そして、もし本当にイエスを知りたいと願うのなら、「主よ。あなたが生きておられるのなら、私に示して下さい」と祈るべきです。そうすればイエスは、必ずご自分を現して下さいます。人々の目がイエスの姿を見ることがないでしょうが、その心に語りかけて下さるのです。そしてトマスのように、「私の主、私の神」と告白するようになるのです。

イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じただのですか。見ずに信じる者は幸いです。」 ヨハネ20：29



自習のために

- 8 イエスに会ったときトマスは何と言いましたか。
- 1) 「信じられない」。
 - 2) 「あなたは正しい方でした」。
 - 3) 「私の主、私の神」。

ヨハネの福音書を書いた目的

ヨハネの福音書20：30～31を読んで下さい。

私たちがイエスについて理解し、彼が神の御子であることを私たちが信じるために、ヨハネはイエスのことばや、素晴らしいみ業の中から選んで書いたのがこの福音書なのです。

しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。

ヨハネ20：31



自習のために

- 9 ヨハネ20：31を暗誦して下さい。
- 10 ヨハネの福音書の目的は何ですか。
 - 1) イエスが神の子であることを私たちが信じるため。
 - 2) イエスのなされたことを知らせるため。



正 解

- 5 2) 父が自分を遺わされたように、弟子たちをこの世に遺わす。
- 1 2) イエスの死体に香料を塗るため。
- 6 3) 聖霊を与える約束。
- 2 1) 墓は開いており中はからだった。
- 7 2) 福音を語ることによって。
- 3 3) イエスの体に巻かれていた布切れを墓で見つけた。
- 8 3) 「私の主、私の神」。
- 4 3) 弟子たちに復活の事実を告げなさい。
- 10 1) イエスが神の子であることを私たちが信じるため。

